

平成15年9月4日
原子力安全対策課
(15-57)
<11時記者発表>

敦賀発電所2号機の第13回定期検査開始について

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力116.0万kW）は、9月5日から約2カ月の予定で第13回定期検査を実施する。

定期検査を実施する主な設備は次のとおりである。

- (1) 原子炉本体
- (2) 原子炉冷却系統設備
- (3) 計測制御系統設備
- (4) 燃料設備
- (5) 放射線管理設備
- (6) 廃棄設備
- (7) 原子炉格納施設
- (8) 非常用予備発電装置
- (9) 蒸気タービン設備

問い合わせ先(担当：小西) 内線2354・直通0776(20)0314
--

1. 主要工事等

(1) 1次冷却材ポンプ供用期間中検査等 (図-1参照)

1次冷却材ポンプの供用期間中検査として、4台あるポンプのうち、Cポンプについて、主フランジボルト、締め付け部等耐圧部の健全性を確認するとともに、分解検査としてインペラ等の内部部品について点検する。

また、長期的な設備信頼性維持の観点より、昇温、降温時における振動安定対策として改良型サーマルスリーブに取り替えるとともに、併せて主軸の取替えを行う。

(2) 主油タンク圧力監視装置設置工事 (図-2参照)

昨年12月、敦賀発電所2号機において、蒸気タービン軸受の潤滑油貯蔵タンク(主油タンク)内のガス成分を抽出するラインのUシール配管が閉塞したことにより、主油タンク内が正圧となり、潤滑油が漏えいし発炎した事象に鑑み、主油タンク内の圧力指示を中央制御室で監視するため、圧力監視装置を設置する。

2. 設備の保全対策および点検工事について

(1) 海塩粒子による応力腐食割れに係る点検

国内プラントにおいて、ステンレス配管に海塩粒子が付着し応力腐食割れが発生した事例に鑑み、今定期検査において、海塩粒子の付着した可能性のあるステンレス配管について、目視点検および配管表面の塩分付着量測定を実施する。

3. 燃料取替計画

燃料集合体全数193体のうち、77体(うち68体は新燃料集合体)を取り替える予定である。

4. 運転再開予定

原子炉起動・臨界	:	平成15年10月上旬
発電再開(調整運転開始)	:	10月中旬
定期検査終了(営業運転再開)	:	11月上旬

< 参考資料 >

敦賀発電所 2 号機の第13回定期検査に関する補足説明資料

- ・ 出力降下開始 : 9月4日 (16時頃)
- ・ 発電停止 : 9月5日 (0時頃)
- ・ 原子炉停止 : 9月5日 (3時頃)

(参考)

敦賀発電所 2号機 第13回定期検査で実施予定の自主点検の例

①制御棒クラスタ案内板摩耗測定調査

(参考図－1 参照)

制御棒クラスタ案内板は、制御棒クラスタを燃料集合体に案内する機能をもっているが、運転中の水の流れて生じる制御棒の微妙な振動により、制御棒クラスタ案内板で摩耗が生じるため、遠隔目視点検装置により点検を実施し健全性を確認する。

②給水ポンプタービン軸受潤滑油系統配管Uシール部点検工事

昨年12月、敦賀発電所 2号機において、蒸気タービン軸受に潤滑油を供給している系統のUシール配管が閉塞したことが原因で、漏えいした油が発炎した事象に鑑み、給水ポンプの駆動用蒸気タービン潤滑油系統でも、同様にUシール配管があることから、点検および清掃を行う。

また、今後、容易に清掃が行えるようUシール配管にフランジを設置する。